（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	にじいろ　城山台			
○保護者評価実施期間	2025年　5月1　日	～	2026年　3月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○従業者評価実施期間	2026年　3　月　1日	～	2026年　3月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	3	（回答者数）	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3　月　31　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの発達段階に応じた支援 児童一人ひとりの発達特性や興味・関心を大切にし、個々の発達段階に応じた支援を行っている。	職員間で児童の発達状況や支援方法についての共通理解を深め、専門的な視点を取り入れながら、個々の発達に応じた支援の充実を図っていく。	職員間で児童の発達状況や支援方法についての共通理解を深め、専門的な視点を取り入れながら、個々の発達に応じた支援の充実を図っていく。
2	多様な活動を通した発達支援 個別活動と集団活動を組み合わせ、児童がさまざまな経験を通して主体的に学べる機会を設けている。	制作活動、運動遊び、自然観察、外出活動、生活体験など、多様な活動を取り入れている。また、児童の興味や発達段階に応じて活動内容を調整し、達成感や意欲につながるよう支援している。	活動内容の幅をさらに広げるとともに、児童が自ら考え、選択し、取り組む機会を充実させていく。
3	護者や関係機関との情報共有 日々の支援記録や保護者との連絡を通して、児童の成長や課題を共有し、家庭と連携した支援を行っている。	活動中の様子や児童の反応を具体的に記録し、保護者に分かりやすく伝えている。また、保育所等訪問支援を通して園での様子を把握し、関係機関との情報共有や支援方法の検討を行っている。	保護者や関係機関との連携を継続するとともに、児童の発達状況や支援目標について、より一層の共通理解を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の意見共有と研修体制 職員間で日常的な情報共有は行っているものの、業務改善に向けた意見交換や計画的な研修機会の確保が十分ではない。	日々の支援や送迎等の業務を優先する中で、職員全体で課題を検討する時間や、研修に取り組む機会を十分に確保できていない。	定期的に職員間で意見交換を行う機会を設け、支援上の課題や改善案を共有する。また、発達支援に関する事業所内研修や外部研修への参加を計画的に進め、職員の専門性の向上を図る。
2	保護者同士の交流機会 保護者同士が交流し、子育てに関する情報や経験を共有できる機会が十分に設けられていない。	保護者の就労状況や家庭環境がそれぞれ異なることから、参加しやすい日時や交流方法の調整が難しく、具体的な開催に至っていない。	保護者の意向や参加しやすい方法を確認しながら、行事や交流会等を通して保護者同士が交流できる機会の設定を検討していく。
3	③ 環境整備と安全に関する取組の周知 児童の特性に応じた環境整備に改善の余地がある。また、避難訓練等の安全に関する取組について、保護者への情報提供が十分ではない部分がある。	個々の児童に応じた環境調整を行っている一方で、事業所全体の構造化や設備面での対応には十分でない部分がある。また、安全に関する取組の実施状況を保護者に伝える機会が限られていた。	児童の発達特性に応じた環境設定や視覚的な手がかりの活用を進める。また、避難訓練や安全対策の実施状況について、LINE等を活用して保護者へ分かりやすく周知していく。